

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 舎人 経 昭
 幹事 池 森 由 幸
 広報・会報委員長 尾 関 武 弘

No. 41

ロータリーの未来は あなたの手に

THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

2009～2010年度 RI会長 ジョン・ケニー

今日の例会
 第1320回 平成22年6月15日(火)
 友愛の日

先週の例会
 第1319回 平成22年6月8日(火) 曇
 講演 金城学院大学英語英米文化学科 専任講師
 馬場今日子様(2001年度財団奨学生)
 “最近の第2言語ライティング研究から見えてきた事”

◆それこそロータリー

◆ゲスト紹介

金城学院大学英語英米文化学科 専任講師
 馬場今日子様(2001年度財団奨学生)

◆出席報告

会員 45(38)名 出席 32名
 出席率 84, 21%
 前々回 5/25(修正出席率) 95, 12%

池森幹事報告

- 1) 本日例会終了後、今年度・次年度合同の理事役員会を開催致しますので、担当の方は3階の梅の間にお集まり下さい。

舎人会長挨拶

「いただきます」

もう二十年も前の話ですが、ある中国人と何年かの間交流する機会がありました。彼は北京大学を卒業し、日本の某大学の大学院生として勉学に励んでいる留学生です。彼の父親は中国の高官で、エリート階級に属しており、彼も日本語をはじめ英語、仏語を自在に話すことができる俊才です。しかしその当時は日中の物価の違いはどうしようもなく、彼を知る私の友人から、何らかの形の経済的援助ができないかとの依頼があり、そこで同好の士教人を募って彼に毎週一回中国語を学ぶことにし、彼を経済的に支えようということになりました。

私の寺が教室となって中国語の学習が始まりましたが、勉強のあとは私の家内の手料理を囲みながら、当時の中国の政治、経済、文化状況などの話題を肴に一杯やるのが楽しみでもありました。その中で、彼の流暢な日本語にも驚かされましたが、同時に彼の教養の高さには感服しました。例えば床の間の掛け軸を、草書であれ行

書であれ、スラスラと読み、試しに経典が収められている「大蔵経」の一冊を差し出したところ、これも難なく読解してしまいます。このような教養は一体いつどこで身に付けたかと聞いたところ、父親から習った、それも五歳の頃から中国古典の素読をやらされたと答えます。中国は「文」の国といわれますが、現代中国でもこのような父子間の教育が一部で厳然として存在していることに驚かされ、中国文化の奥深さを痛切に感じました。

食事が始まる時、私たち日本人はごく自然に合掌して「いただきます」と唱えます。彼も当初はとまどっていたようですが(現代中国では日本のこのような作法はなく、食事でも無言で始まることが多いようです)、そのうち一緒に手を合わせて「いただきます」と自然に唱えるようになりました。しかし、彼はある時、ためらいながら私に次のような質問をしてきました。

「前から不思議に思っていたのですが、私たち客が食事を出されて、礼儀として“いただきます”と挨拶するのはよく理解できます。しかし、接待するあなた自身が、皆と同様にするのは何故ですか」

文化の違いでしょうか。彼がこのような疑問を持ったことに大いに驚かされました。確かに日本でも家庭で接待されたような時、「このようなご馳走を出していただき、ありがとうございます」という気持ちで言う場合がありますが、日本人の「いただきます」という作法は、それだけではないことを説明しました。

日本では、普通の日常生活での家庭の食事においても、家族と一緒に「いただきます」と言い、その気持ちは「この食事を摂ることができて、ありがたい。この食事は全て、もともと生命があったもの。その生命をいただいて自分の生命を長らせることができるのである。感謝せずにはいられようか」と思うことが基本にある筈である。それ故に食材である米や野菜、魚や肉に感謝をこめて「いただきます」と言うのであり、そのため、今自分が接待する立場であっても「いただきます」と唱えて食事を始めるのである。

このようなことを説明したら、彼はしきりにうなづいて、「とても良いことを聞きました。今まで食事に関してこのような考えを聞いたのは初めてです。自分で稼いで自分の好きな美味しい食事を腹一杯食べる、それが食事の全てであると考えていましたが、やはり日本文化には奥ゆかしいものがありますね」と文化論にまで話が進んで感想を述べていました。

あれから二十年。彼が今の日本の状況を見たら、日本人は昔の自分と同じではないか。感謝の気持ちなど微塵も感じられない、と思うのではないかと恐れます。北陸

地方のある県では、昔から小学校の給食のとき、児童たちはごく自然に手を合わせ、声をそろえて「いただきます」と食事をしていました。これを他地方からの転校生の父兄が見て、「特定の宗教に偏った行為だ」と学校にクレームをつけ、このため学校側は今までの食事作法をいとも簡単に廃止してしまったということです。

教養ある中国人が感心した日本の美しい習俗をその心とともに、私たち日本人が取り戻したいものです。あるお母さんが五歳の息子に「お母さんはボクのすることに、いいとか悪いとかって言うけれど、それはどうやってきめるの」ときかれて答えられず、この言葉がその後どんな教育書を読むよりも子育てについて考える機会を与えてくれた、と述懐していました。

物事のよしあしを判断する物差しはそれぞれ人によって違います。十人いれば十通りの物差しがあります。まったく同じ事に対して、ある人は悪いと言うのに、ある人はそんなこといいではないか、と言います。家族でも夫婦間でも職場でも、どんな所でもこんな経験は少なからず誰でもすると思います。その意見の違いから争いが起こります。

約一三〇〇年前に聖徳太子は、日本で最初の憲法である「十七条憲法」を定めました。その憲法の第十条に、こういう言葉が書かれています。

「人の違をを怒らざれ。人にはみな心有り。心には各々執れること有り。彼れは是みすれば我は非みし、我はみすれば彼れは非みす・我必ずしも聖にあらず、彼れ必ずしも愚にあらず。共に是れ凡人なるのみ…」

私たちはみんな、自分が偉い、あるいは正しいと思いつつ人とのお付き合いをしているのですが、みんなそれほど偉いもんじゃない、みんなほどほどで似たようなものなんだ、というのです。

人にはそれぞれその人の立場や考えがあつて、それを基準に判断するので、まずは、自分と同じにはならないと考える方が当たっているようです。

自分が相手と立場が入れ替わったとして、今の自分と同じ考えができるかという、これが難しいのです。だから、相手が自分の思うようにならないからといって、相手が愚かだとも言えないし、また自分だけが偉いのもないのです。ほとけさまという大きな立場から見たら、我々お互いみんな凡人の集まりで、ドングリの背比べなのだ。だから人が自分と考えが違うからといって怒ってはならない、というのです。

こういうことをよく解ることが大事だと聖徳太子は考えられました。

十七条憲法的第一条には、「和を以て貴しとなす」と書かれてあり、調和、和合、和やかさ、の和が国が治まる根本に必要なことだとしています。夫婦、親子、嫁姑、兄弟、近隣、同僚、友人、そういう身近かな人間関係に和があることが、即ち国が平和であることの根本になるのです。

◆講演 “最近の第2言語ライティング研究から
見えてきたこと～私の研究活動記”
金城学院大学英語英米文化学科 専任講師
馬場今日子様（2001年度財団奨学生）
（紹介 池森幹事）

本日はお話しさせていただく機会を賜り、誠にありがとうございます。私は2001年から3年間ロータリー財団奨学金をいただき、カナダのトロント大学へ5年半留学した後、金城学院大学文学部に専任講師として就職しま

した。財団奨学金をいただいてから現在ちょうど10年になります。今日このような機会をいただいたことを非常に感慨深く、ありがたく思っております。



今強く思うことは、仕事は人とのつながりで動いていく、ということ。そう思うようになったエピソードを2つご紹介します。まず、最近嬉しかった出来事を5つ考えました。第1に、ようやく論文を出版できるようになったこと。第2に、文部科学省から科学研究費補助金をいただけるようになったこと。第3に、私の研究分野最大の学会の会長から、論文執筆依頼を受けたこと。第4に、名古屋大学の恩師に声をかけていただき、今学期名古屋大学で2回講演をさせていただくこと。第5に、2010年5月にフロリダで行われた人工知能の学会に応募した論文が、168本中9位の評価をいただいたこと。これらの出来事のすべてが、周りの方からの助けや働き掛けによって実現された、ということに思い至りました。

もう一つのエピソードは、現在行っている研究についてです。この研究では、日本人大学生の英作文能力の変化を調べています。（卓話ではこの研究についてグラフなどを使い、ご説明しました。）この研究は今のところ好評価をいただいているのですが、おそらくその理由は2つあります。複雑系理論を参考にして発達の非線形性に注目している点と、Coh-Metrix という最新のテキスト分析ツールを使っている点です。実は、これらは両方とも、友人とのやり取りの中でもたらされました。

特に Coh-Metrix 開発者の一人である Philip McCarthy 教授とは不思議な縁がありました。今から3年程前、私は論文を書き、権威ある学術雑誌に投稿しました。Phil さんはその時の査読委員の一人でした。残念ながら私の論文はその雑誌には受理されず、当時大変落ち込んでいました。しかし、Phil さんからいただいたコメントが非常に素晴らしく、あまりにも勉強になったので、どうしても感謝の気持ちが伝えたくて「ありがとう」とメールをしました。すると彼から返事があり、さらに多くのことを教えてもらいました。Coh-Metrix もその時教えてもらったことの一つです。今の研究があるのは、あの失意の中、勇気を出して「ありがとう」のメールを書いたおかげだった、としみじみ思います。

私は今まで漠然と世の中の役に立つ仕事がしたい、と思ってきました。しかし今は、周囲の方たちをよく知ること、その顔が見える方たちに対して誠実な仕事をするのが大事なのではないかと思うようになりました。今日は自分の研究活動についてお話しましたが、教育も公務もその他の仕事も同じだと思います。これが現在私が自分の仕事について考えていることです。ご清聴、ありがとうございました。

◆ニコボックスは次回掲載させていただきます。